日医発第864号(健I126) 東都医発第2082号 平成30年10月29日

(公財) 東京オリンピック・ パラリンピック競技大会組織委員会 会長 森 喜 朗 先生 副会長 河 野 一 郎 先生

公益社団法人 日本医師会長 横 倉 義 武

公益社団法人 東京都医師会長 尾 崎 治 夫

2020年東京オリンピック マラソン競技のスタート時刻1時間半繰り上げに関する要望

貴職におかれましては、平素より医師会活動にご理解、ご協力を賜り、厚く お礼申し上げます。「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)に向け、いろいろとご尽力 されていることに敬意を表します。

私ども(公社)日本医師会ならびに(公社)東京都医師会は、医療を専門とする立場から、平成28年11月2日に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会熱中症等対策に関する要望について」を提出いたしました。

その後、マラソン競技のスタート時刻が比較的早い7時と決まりましたが、7時スタートでは熱中症リスクが極めて高いとみられる10時頃まで競技が続くこととなるため、対策として十分とは言えません。選手のみならず、関係者や観客が熱中症になる危険性が高くなれば、救急出動が増加することで医療機関や一般の患者にも影響が及ぶこととなり、多大な危惧の念を抱いております。

選手・関係者や観客の熱中症のリスクを軽減するために、マラソン競技のスタート時刻を1時間半繰り上げていただくよう要望いたします。

「東京オリンピック・マラソン競技スタート時間繰り上げの提案WBGT (時間×位置)マッピングデータから」(松本孝朗ら)より抜粋

暑さ指数に応じた注意事項等(熱中症環境保健マニュアル)

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき生 活活動の目安 (注1)	日常生活おける注意事項 ^{(注} 1)	熱中症予防のための運動指針(注2)
31℃以上	すべての生活 活動でおこる 危険性	高齢者においては安静状態で も発生する危険性が大きい。 外出はなるべく避け、涼しい室 内に移動する	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止する。特に 子どもの場合は中止すべき
28~31℃		では室温の上昇に注意する	厳重警戒 激しい運動や持久走は避ける。積極的に 休息をとり、水分塩分補給。体力のない 者、暑さになれていない者は運動中止
25~28℃	生活活動でお	1	警戒 積極的に休息をとり、水分塩分補給。激しい運動では、30分おきくらいに休息
21~25°C	強い生活活動 でおこる危険 性	一般に危険性は少ないが激 しい運動や重労働時には発生 する危険性がある	注 意 死亡事故が発生する可能性がある。熱中 症の兆候に注意。運動の合間に水分塩 分補給

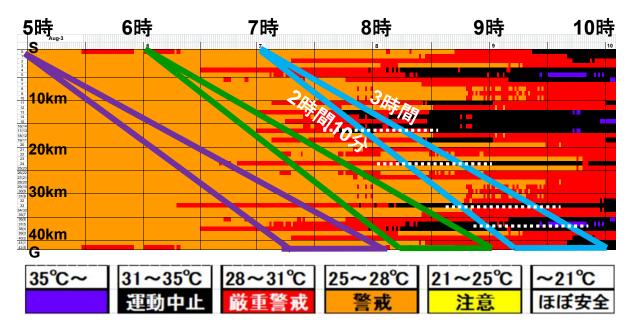
(注1) 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3(2013) より (注2) 日本体育協会「熱中症予防のための運動指針」(2013)より 1

「東京オリンピック・マラソン競技スタート時間繰り上げの提案WBGT (時間×位置)マッピングデータから」(松本孝朗ら)より抜粋



2017年7月29日~31日、8月7日~9日(6日間)、2018年8月2日~10日(9日間)、オリンピックのマラソンコース、1km毎の地点(地表高0.8~1.2m)に携帯型WBGT計を設置し、1分毎のWBGT、黒球温、気温、相対湿度を記録した。

「東京オリンピック・マラソン競技スタート時間繰り上げの提案WBGT (時間×位置)マッピングデータから」(松本孝朗ら)より抜粋



7時スタートの場合、「警戒」・「厳重警戒」、時に「<u>運動中止</u>」の中をランナーは走行することが読み取れる。観客、スタッフは**1**時間その場所に立っていた時の暴露温度が「白色点線」で示される。 $_3$

「東京オリンピック・マラソン競技スタート時間繰り上げの提案WBGT (時間×位置)マッピングデータから」(松本孝朗ら)より抜粋

	5時	5時半	6時	6時半	7時	7時半	8時	8時半	9時	9時半
Jul-29	24.9	25.0	25.4	25.8	26.4	26.4	26.6	27.7	28.1	28.3
Jul-30	23.8	24.1	24.5	24.9	25.4	26.2	27.1	27.6	28.2	28.4
Aug-7	26.3	26.5	26.7	27.3	27.8	28.4	29.3	29.5	30.5	30.7
Aug-8	26.9	27.0	26.9	26.9	27.0	27.2	27.2	27.0	26.9	27.1
Aug-9	25.6	25.7	26.4	27.0	27.3	28.1	29.3	29.9	30.7	32.0
Aug-2	27.3	27.4	27.5	27.7	28.1	28.5	28.5	28.7	29.0	29.5
Aug-3	27.2	27.2	27.2	27.5	28.0	28.4	28.7	29.4	29.9	30.8
Aug-4	26.7	26.8	26.9	27.1	27.5	27.5	28.7	29.1	29.6	30.2
Aug-5	26.7	26.8	26.9	27.1	27.5	28.1	28.7	29.1	29.6	30.1
Aug-6	27.4	27.5	27.7	27.8	28.0	28.1	28.4	28.7	29.2	29.4
Aug-9	23.7	23.8	23.9	24.1	24.4	24.8	25.1	25.4	25.9	26.0
Aug-10	26.4	26.3	26.2	26.3	26.7	27.1	27.6	28.3	28.8	29,4
平均	26.1	26.2	26.4	26.6	27.0	27.4	27.9	28.4	28.9	29.3

台風の影響(雨天)で冷涼であった**3**日間を除いた**12**日間について、 繰上げの効果を解析した。

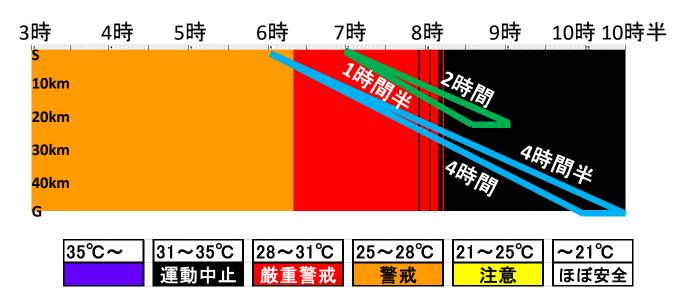
全コースの平均WBGTを30分ブロックで示すと、午前5時~8時は「警戒」、8時半~9時半は「厳重警戒」レベルとなった。立位で観戦する観客・大会スタッフの運動強度は2METs(※軽運動)と推定され、熱中症発生のリスクが高い。スタート時間を5時半まで繰上げると8時半までに競技がおよそ終了し、「警戒」レベルで実施できる。

第57回日本生気象学会大会(京都、2018 Oct 28) シンポジウム 「東京オリンピック、パラリンピックへ向けた熱中症対策の提言」

マラソンスタート時間の「1時間半の繰上げ」と安全な観戦場所情報、競歩のス タート時間繰上げ(松本孝朗、山下直之) より抜粋

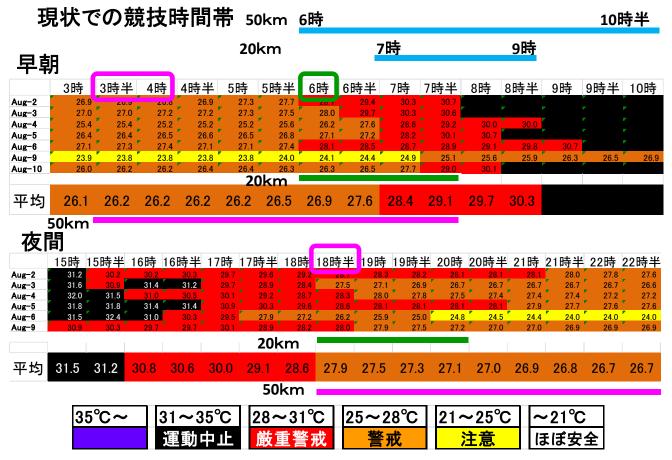
50km競歩(男子) 20km競歩(男子/女子)コース 北側折返し点 50km(大手門) 北側折返し点 20km Start/Finish Area 南側折返し点 (祝田橋付近) 20kmコース

> 東京オリンピック 50km競歩コース WBGTマッピング 2018年8月3日午前3時~10時半、晴れ、日の出 5時



二重橋周辺には、日射しを遮る建物や高い樹木がほとんどなく、 50km競歩(6時スタート)、20km競歩(7時スタート)では、 「厳重警戒」、「運動中止」となり、危険度が非常に高い

30分毎のWBGT(50km、20km競歩コース)



提言2. 競歩競技について

①夜間:20、50kmともに18時半スタート:「警戒」

②早朝:「厳重警戒」の8時までに終了のため、

50kmは3時半(遅くとも4時)スタート、20kmは6時

スタート

③コース上に天幕を設置し、予定通りの開催





セビリアの耐暑対策 天幕アーケード

> 日射を遮る ことで WBGT低下

日医発第 852 号(地 I 212) 東都医発第 1959 号 平成28年11月2日

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長 森 喜 朗 先生副会長河 野 一 郎 先生

公益社団法人 日本医師会長 横 倉 義 武

公益社団法人 東京都医師会長 尾 﨑 治 夫

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 熱中症等対策に関する要望について

貴職におかれましては、平素より医師会活動にご理解、ご協力を賜り、厚く お礼申し上げます。「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)に向け、いろいろとご尽力 されていることに敬意を表したいと思います。

私ども(公社)日本医師会ならびに(公社)東京都医師会といたしましても、 医療を専門とする立場からの種々の協力を惜しまない所存です。すでに本年1 月以降、数回にわたり(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組 織委員会等の関係者の方々にも参画いただいて、勉強会やシンポジウムを開催 しているところです。

組織委員会におかれましては、メディカル・ディレクターや医療サービス部 長をはじめとする方々が、医療対策につきましても精力的に取り組まれている と聞いております。

一方で、私ども医療関係者の中では、年々日本の気温が上昇傾向にある中、 日本特有の高い湿度を伴う暑さの中、特に東京オリンピック開催期間に予定されている7月24日から8月9日は(私どものみならず数々の機関の予測を見ましても)、選手のみならず内外の観客そして一般市民の間で、多数の熱中症患者が発生することが予測され、このことについて多大な懸念・危惧の念を抱いているところです。

つきましては、医療現場を担う者の観点から、別記のとおり要望をいたした く、何卒ご検討のうえ、ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 熱中症等対策に関する要望

- 一、オリンピック・パラリンピック開催期間中の熱中症等の対策には、救急搬送、医療やメディア等の様々な分野の関係者が参画し、徹底的に検討を行い、 十分かつ確実な体制を構築すること。
- 一、オリンピック・パラリンピック開催期における熱中症等の対策は、選手・ 関係者や観客だけではなく、一般の患者も含めた全体的な視点に立って行う こと。

我が国は、現状でも、高齢者の増加に伴って救急隊出動件数や救急患者搬送数が毎年増加傾向にあります。特に主要開催地である首都圏は、搬送困難事例の多い地域となっております。

開催期間中は、通常よりも多くの人々が観戦や各種イベント参画等のため 外出いたします。また、外国人客が多数来日することが見込まれます。さら に、競技開催に合わせて行われる公式・非公式のイベントについても対策が 必要です。

オリンピック・パラリンピックでは、観客や観戦後の方々の救急医療は、 一般の救急患者と同様、地域の医療機関が担うこととされております。

一、オリンピック・パラリンピック関係機関・団体には、東京都医師会はじめ 関係都道府県医師会や郡市区医師会との連携を密にすること。

上記の通り、観客や一般の救急患者を引き受けるのは、主に地域の医療機関になります。国籍を問わず、医療を必要とする者には適切な医療が提供されなければなりません。

一、訪日外国人が適切に医療を受けられる環境を整備すること。

競技会場を中心に、多数の外国人が局地的に訪れます。さらに、訪日客の場合は競技観戦のみならず、日本中の観光地を訪れることが予想されます。国や地方公共団体による取組みも進められていますが、なお一層、次のような環境整備が必要です。

- ■外国人向け医療情報サービスの充実
- ■医療機関における事務作業の軽減
- コミュニケーション手段:医療通訳、ボード、Web その他
- 医療費:旅行保険の加入促進、未払い事例への財政措置
- 地域の医療機関が外国人患者を受入れた場合の情報サービス、<u>相談</u>(食事、慣習・宗教上のタブー等を含む)
- 医療機関における事故発生時の対応

一、障害者(児)やその家族等の健康管理に十分配慮すること。

特にパラリンピック競技大会開催期間(8月25日~9月6日)は、障害者(児)やその家族(高齢の両親含む)等が観戦やイベント参加等のため外出するものと見られます。その多くの方々が、健康管理や身体の安全に配慮が必要かと思われます。